



プレシジョン・システム・サイエンス株式会社 会社説明会

平成17年8月23日

PSSのテクノロジー & ビジネス の現状

PSSテクノロジーの発展

応用分野

技術	マグトレーション(磁性体)
分野	核酸抽出・精製
販売先	ロシュ、キアゲン
販売実績	DNA自動抽出装置等 901台/年、 売上高:32億円

核酸抽出・精製分野で
グローバル・ポジションを確立

総合的Sample Preparation
技術に発展

上流自動化

下流自動化

全自動化

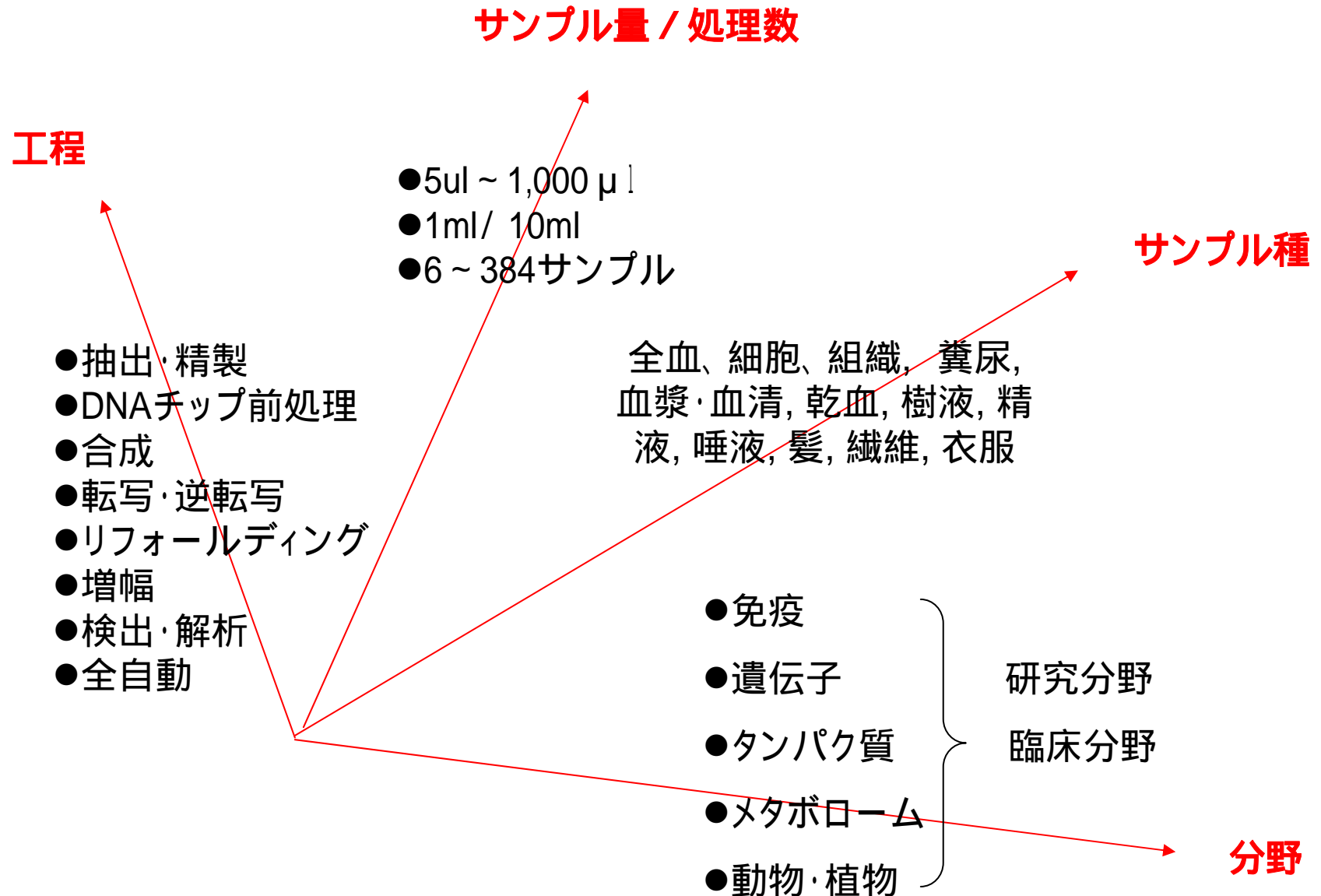
現状の事業実績をもとに、
PSSはこの業界で何にチャレンジしていくのか

*Sample Preparation*の自動化

+

- 1** (増幅・解析技術 全自動化)
- 2** (試薬)
- 3** (遺伝子情報・解析)

Sample Preparationのバリエーション



Sample Preparation - 1

DNA抽出・精製分野における用途別多機種化

* OEM製品を含め10数機種を上市



DNAチップ前処理工程自動化への応用

● サンプル・プレパレーション・システム



< DNAチップを実用化するための課題をクリア >
短時間化、高精度化を実現
サンプル処理工程が複雑で人手による作業であることが、DNAチップの汎用を阻んでいた。

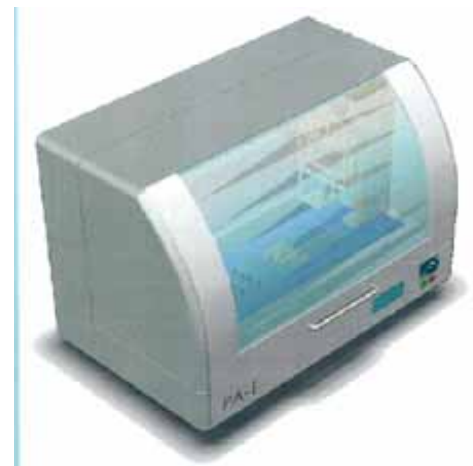
1st Step Code-Linkユーザー向けに、アマシャム社試薬、
自社試薬とともに、システムを販売

年内 サイト開始、来年春頃から本格販売予定

様々なDNAチップユーザー向けに、試薬及びシステムを販売

プロテオーム分野への応用

1. ポストゲノム研 (PURESYSTEM)
* タンパク合成・精製の自動化
2. ProteomeTech (リフォールディング装置)
* タンパク質活性化工程を自動化
3. プロテオーム探索用アルブミン等6種阻害タンパクの除去



マグトレーションがプロテイン解析に
応用可能であることを立証

バイオストランド・タンパクチップとの連携により、一貫プロテイン相互作用・解析を目指す。

< その他の応用分野への取組 >

- バクテリア濃縮・抽出
ex) 土壌中微生物の遺伝子資源の効率的探索・解析技術の開発
- ライゲーションシステム (多重遺伝子連結技術の全自動化)
- 血清IgEの分離精製法の開発 (高感度なアレルギー検査のための前処理)

Sample Preparation + 1

検出技術との融合(全自動システム化)

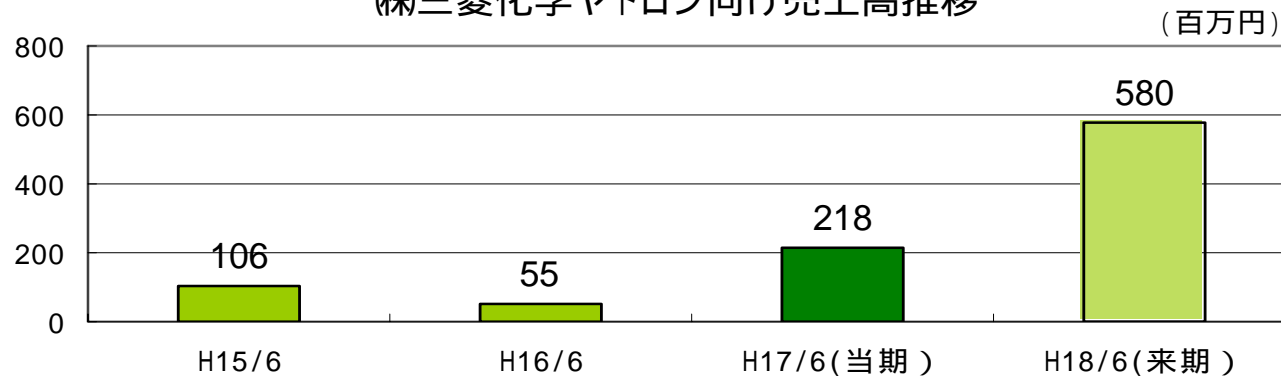
* Sample Preparation+化学発光検出の全自動化を立証

新規OEM

三菱化学ヤトロン向け“PATHFAST”



(株)三菱化学ヤトロン向け売上高推移



●今4月より正式販売(国内)となり、順調に出荷

●来期より、グローバル販売を予定しており、順調な出荷見通し

全自動化に向けた検出技術の取組み

バイオストランド

- Handy Bio-Strandの製品化
(外部機関3先にてデータ検証中)
- 診断用13SNPs解析データの検証
- 麻薬関連SNPs解析データの検証

蛍光バーコードビーズ

- 診断用13SNPs解析データの検証
- 肝炎・リウマチ関連SNPsの探索
- MagSNiPer FD II FFDS解析ソフト改良
- ビーズ径の最適化検証

特許問題、既成技術の実用における問題、価格を考えると、PSSの技術が市場に受け入れる可能性は十分あり、これらはPSSの次の主力製品になり得る。

All Process in Tip(高機能チップ)

- 構想確立 & 試作品製作
- PURESYSTEMにも利用

非磁性体高機能素材を利用した高精度チップ

Sample Preparation との結合

全自動化システム

Sample Preparation + 2

特徴的分野における試薬開発の進捗

< 現在の製品リスト >

製品名
Magtration Plasmid DNA
GC series, Plasmid DNA, Transfection Grade
GC series, Genomic DNA whole blood
Genomic DNA for 7ml
GC series Magtration-MagaZorb DNA Common Kit 200
GC series Magtration-MagaZorb RNA Common Kit

*赤字 = 当期発売 / 青字 = 当期バージョンアップ

< 今後の開発テーマ >

- DNAチップ前処理 * 来春発売予定
(cDNA・cRNAの抽出・精製)
- プロテイン除去・解析
- マルチプレックス反応
 - 腫瘍マーカー
 - アレルギー
 - DNAチップ
 - DNA修飾

3 への展開

Sample Preparation + 3

有用遺伝子情報解析システムの実用化

Sample Preparation + 1、 2、 3

II

Sample Preparation + **機器 + 試薬 + 遺伝子情報**

シンプルな解析システムの実現・事業化

< PSSが目指すテーマ >

- 麻薬関連SNPs解析(スカンジナビア半島 大学)
- 疾患関連SNPs解析(国内大学)
- バクテリア・ウイルス関連アプリケーション開発(米国大学)
- 癌関連バイオマーカー探索のためのペプチド抽出・精製(米国大学)
- メジャータンパク除去(米国研究機関)
- アフィニティー精製(米国研究機関)

* 国内外研究機関、企業との提携・共同研究が本格化

PSSの販売拡大戦略

販売活動の現状と今後の展開

当期売上高のうち**核酸抽出**分野がほとんどを占める。
当期売上高の**80.6%**が海外売上。

PSSの今後の売上拡大施策とは、

核酸抽出の応用分野(アプリケーション)が、PSSの事業を拡大。
(**アプリケーションの拡充**)

日本を技術開発、生産拠点の中心として、日本の機器・試薬メーカーとの連携を充実拡大。(出資、**ジョイントベンチャー設立**なども視野に入れ検討を行なう)

先行市場である欧米市場で、さらに提携先を増やしネットワークを拡大
(**OEM提携の確立、プロテオーム技術開発・共同研究、欧米子会社の体制強化**)

18年6月期は、特に米国における提携先獲得が最大のテーマとなる。

欧州販売ネットワーク網の構築



< 直販 >

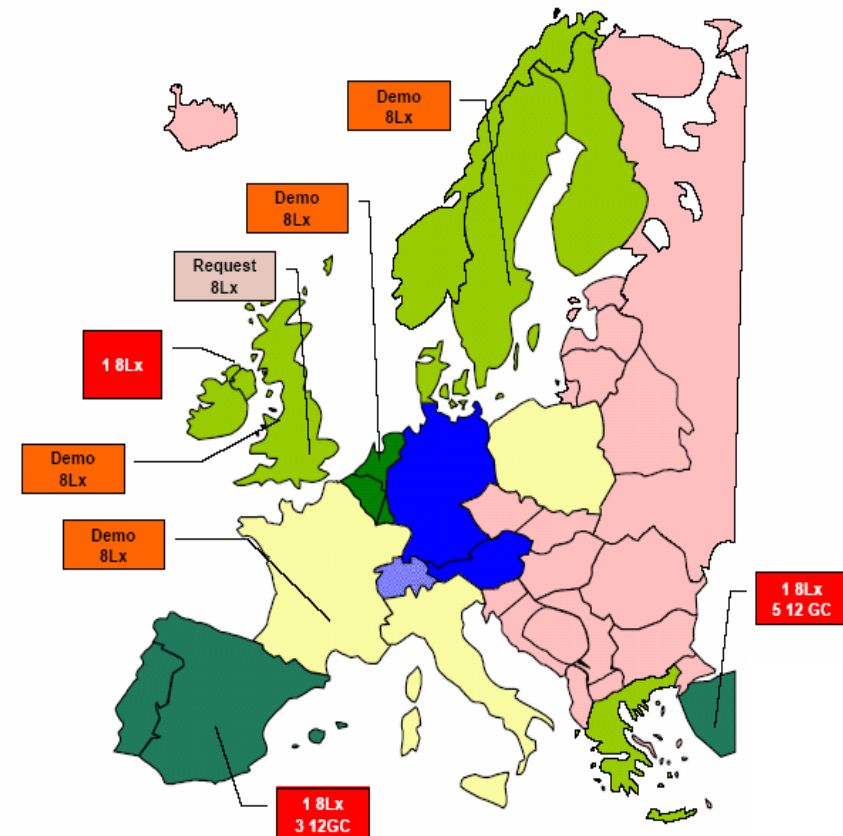
- 8Lx (1機) 販売(医療機関向け)

< ディストリビュータ販売 >

- 8Lx (2機)、12GC (8機) 販売

(ディストリビュータ契約)

3先契約済、5先(進行中)



欧米子会社の体制強化

<PBI(米国)>

- 人員:4.5
(社長1、営業1、顧客サポート1、財務経理1.5)
- 設備:269m²
- 売上:29百万円

- 人員:+2~4
(マーケティング、営業、R&D)
- 設備:613 m²(ISO基準適応)
(クリーンルーム、Wet/Dry Lab、実験室)

- 東海岸 / 西海岸の営業強化
Native人材の採用
- 東海岸の研究機関 / 大学との共同
開発

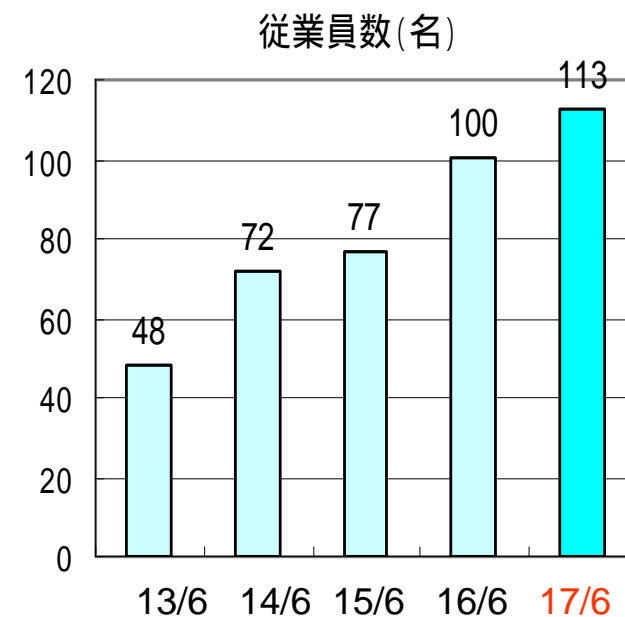
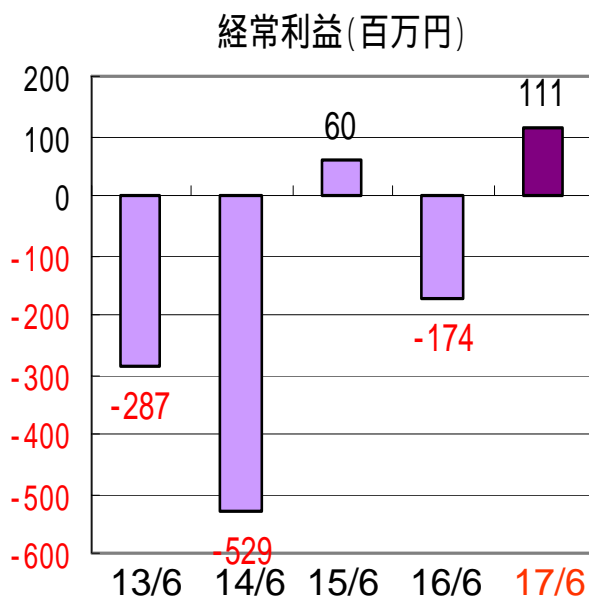
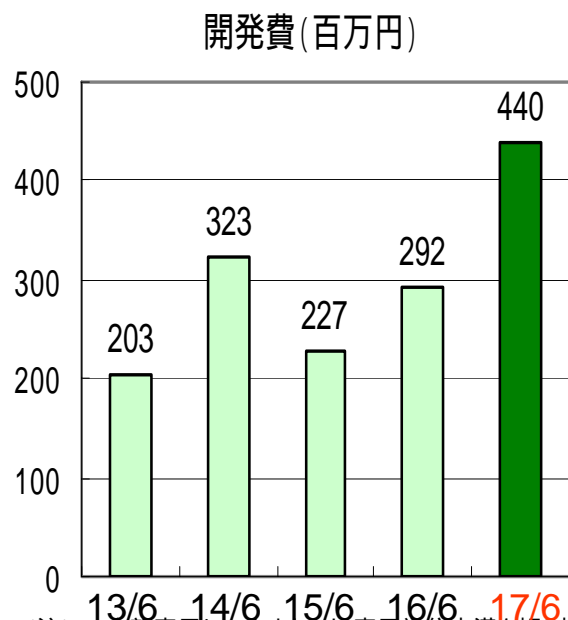
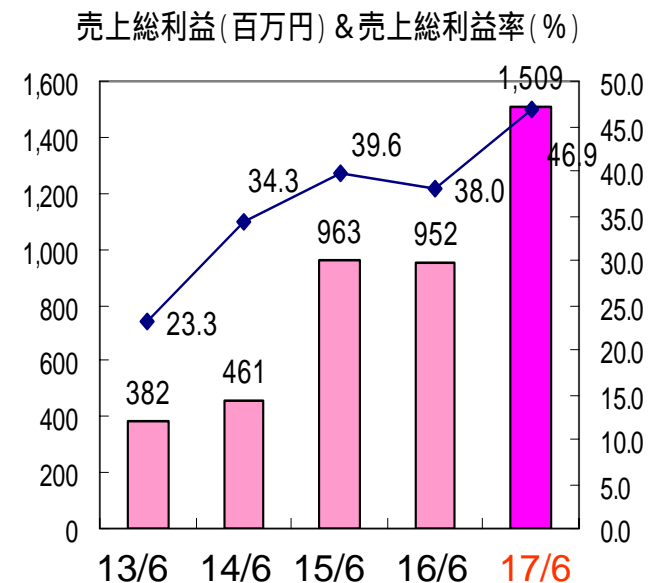
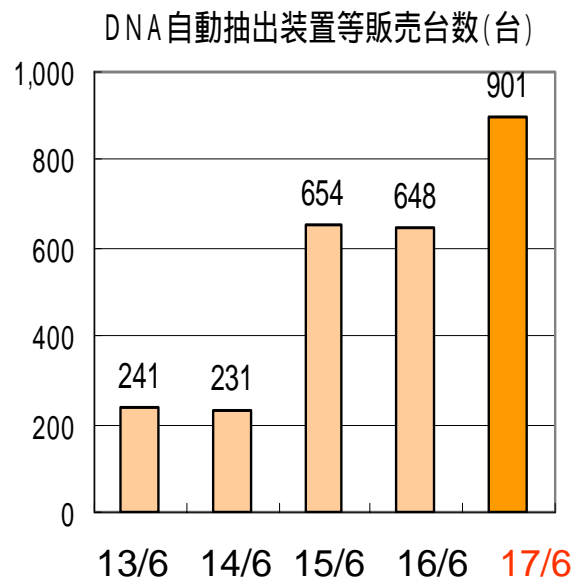
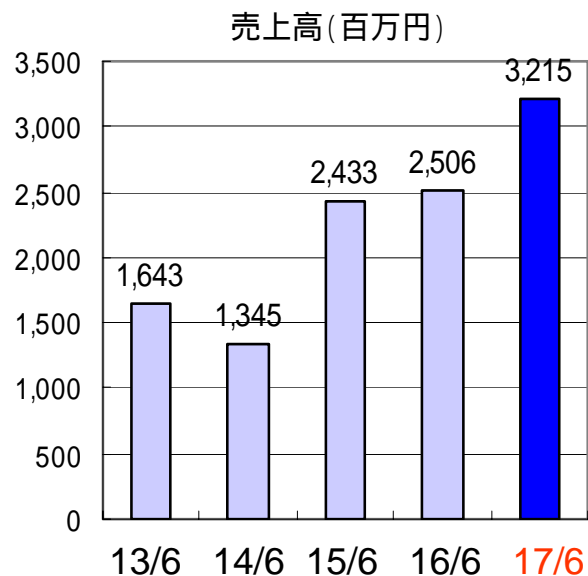
<PSSE(ドイツ)>

- 人員:5(全てNative)
(社長1、新規開拓1、営業1、顧客サポート1、物流1)
- 設備:220m²(会議室のみ)
- 売上:941百万円

- 人員:+2~4
(顧客サポート、営業、総務)
- 設備:460m²
(クリーンルーム、トレーニングルーム)

- 活動エリアの拡大(欧州全域 +)
- 製品拡販に伴う顧客サポートの強化

業績概況(連結) 平成17年6月期



(注)1. 金額表示につきましては表示単位未満を切り捨て、パーセント表示につきましては表示単位未満を四捨五入して記載しております。

2. H14/6期より連結財務諸表を作成しているため、H13/6期は個別財務諸表の数値を用いております。

3. 従業員数については、グループ内の役職員、派遣社員、パート等を含む人数を記載しております。

平成17年6月期連結業績の概況

(単位：百万円・%)

	16年6月期 (前連結会計年度)		17年6月期 (当連結会計年度)	
	金額	前期比	金額	前期比
売上高	2,506	3.0	3,215	28.3
売上総利益	952	1.2	1,509	58.4
販管費	1,078	20.3	1,376	27.6
営業利益	126	-	132	-
経常利益	174	-	111	-
当期純利益	181	-	64	-

平成17年6月期連結業績の概況

(単位：百万円・%)

	17年6月期 (当連結会計年度)	
	金額	前期比
売上高	3,215	28.3
売上総利益	1,509	58.4
販管費	1,376	27.6
営業利益	132	-
経常利益	111	-
当期純利益	64	-

売上高
主力OEM先3先とも順調な販売

売上総利益
売上総利益率は46.9% (前期比8.9ポイントの改善)
主な要因：

RDG社に対する次世代機種独占販売権付与
(204百万円)

前期のような開発製造が一段落
製造コスト削減効果

為替相場(ユーロに対して円安基調)
(為替の影響額:前期比では、売上高、売上総利益とも34百万円のプラス効果)

販管費

開発費増及び人員増強による諸経費増

主な要因：開発費440百万円(前期比50.7%増)

PATHFAST(株)三菱化学ヤトロン)

ハンディ・バイオストランド

DNAマイクロアレイ用サンプル・プレパレーション・システム

RDG社向けの次世代機種

全自動タンパク質合成システム(株)ポストゲノム研究所)

- RDG社に供給しているDNA自動抽出装置の次世代機種に関するもの
- RDG社がある仕様の権利確保を行ったもの
- 同製品に関し5年間の独占販売権を付与
- 今後、別途開発契約を締結する予定
- 実際の製品化は2年後を目途(RDG社)

取引先別売上高 平成17年6月期(連結)

(単位:百万円・%)

	16年6月期 (前連結会計年度)		17年6月期 (当連結会計年度)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
ロシュグループ	1,513	60.4	1,456	45.3	3.7
キアゲングループ	505	20.2	1,069	33.2	111.7
(株)三菱化学ヤトロン	55	2.2	218	6.8	295.8
その他	432	17.2	471	14.7	9.0
合計	2,506	100.0	3,215	100.0	28.3

ロシュグループ

前連結会計年度のスポット取引(日本赤十字社向けの大型機種)分の落ち込みがあったものの、前述のとおりRDG社に対する次世代機種の独占販売権の付与(204百万円)により前期比3.7%の微減に着地。

キアゲングループ

主力装置(コンパクトタイプ)がOEM契約締結から3年目に入り、本格的な普及期を迎えたものと考えられ、前期比111.7%増に着地。

(株)三菱化学ヤトロン

新規OEM製品「PATHFAST」が、この4月より正式発売となり順調な出荷が開始されたことから、前期比295.8%増に着地。

その他

韓国FTI社への(株)ポストゲノム研究所と共同開発中の全自動タンパク質合成システムに関する5年間の独占販売権付与(100百万円)。

製品区分別の状況

(単位：百万円・%)

	16年6月期 (前連結会計年度)		17年6月期 (当連結会計年度)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
DNA自動抽出装置等	1,723	68.8	1,928	60.0	11.9
その他理化学機器	146	5.8	81	2.5	44.1
その他製品	136	5.5	221	6.9	61.6
商品(プラスチック消耗品)	499	19.9	679	21.1	36.1
その他営業収入	-	-	304	9.5	-
合 計	2,506	100.0	3,215	100.0	28.3

<その他営業収入>

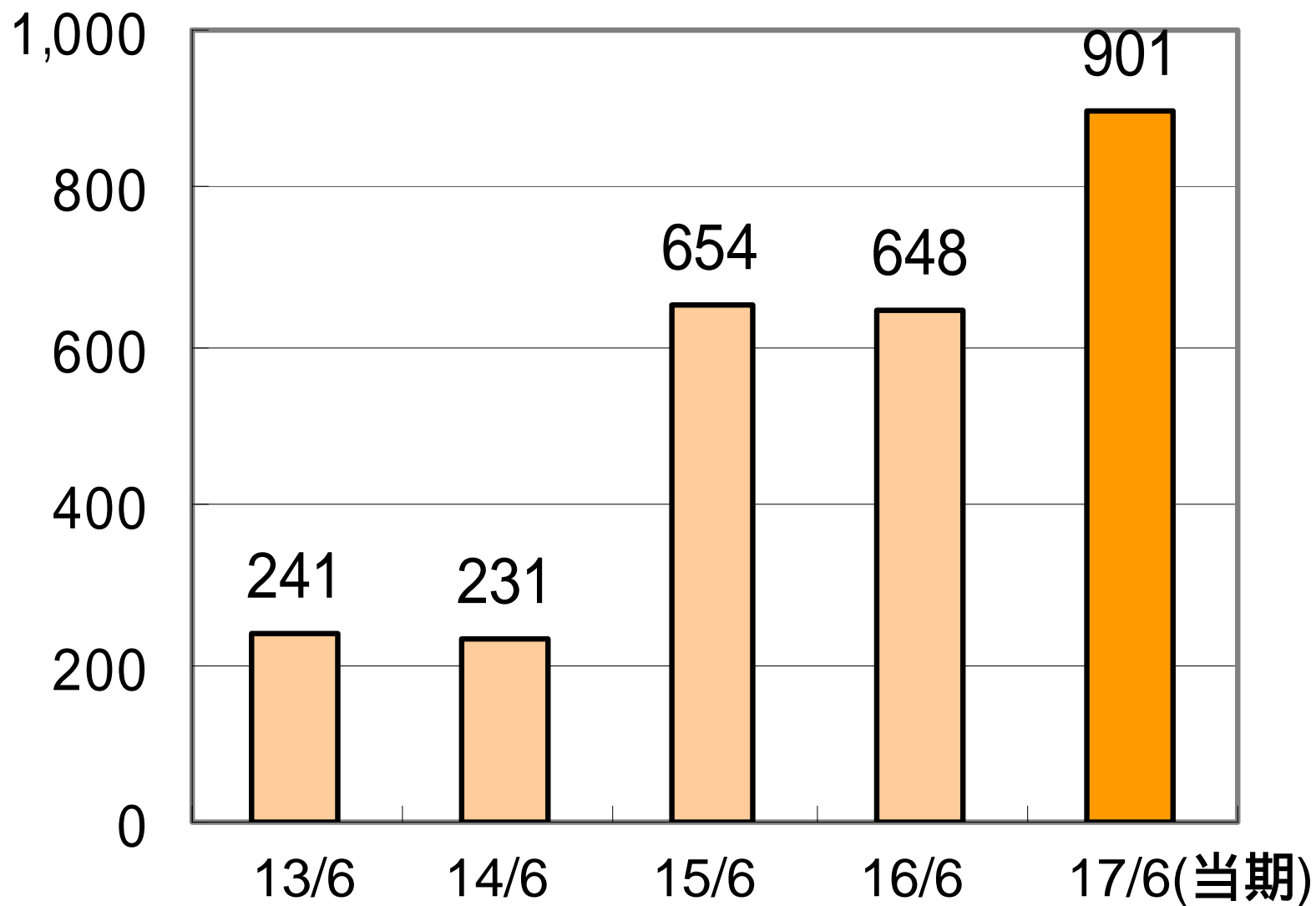
韓国FTI社(100百万円)=全自動タンパク質合成システム(ポストゲノム研)

* 装置開発や試薬入手ルートの確保などで、売上原価に66百万円、開発費に28百万円の費用計上

RDG社(204百万円)

* 装置開発のため開発費に25百万円を費用計上

DNA自動抽出装置等販売台数(台)



平成18年6月期(連結) 通期見通し

(単位:百万円・%)

	17年6月期 (当連結会計年度)		18年6月期 (来期見通し)	
	金額	前期比	金額	前期比
売上高	3,215	28.3	3,550	10.4
売上総利益	1,509	58.4	1,530	1.4
販管費	1,376	27.6	1,480	7.6
営業利益	132	-	50	62.4
経常利益	111	-	30	73.1
当期純利益	64	-	270	-

平成18年6月期(連結) 通期見通し

(単位:百万円・%)

	18年6月期 (来期見通し)	
	金額	前期比
売上高	3,550	10.4
売上総利益	1,530	1.4
販管費	1,480	7.6
営業利益	50	62.4
経常利益	30	73.1
当期純利益	270	-

売上高
当期のスポット取引「その他営業収入304百万円」の
落ち込み分をカバーし更なる売上拡大を予想

主な要因

「PATHFAST」(株)三菱化学ヤトロン向け)順調出荷
特注検体仕分け分注機の大型案件が受注見込み

売上総利益
売上拡大に伴う収益増により、ほぼ当期並み

販管費
欧米子会社の人員強化及び展示室や実験ラボ
の設置を目的とした施設拡充による費用増加
開発費400百万円(前期比 40百万円)の見込み

特別損失

減損会計適用による特別損失237百万円を予定

< 減損処理対象 >

平成2年8月に取得した松戸市に所在する旧研究所及び旧研究所に存在する装置・器具類

為替相場の前提

1ドル = 110円、1ユーロ = 135円

(ユーロ相場が通期平均で5円動くと、売上高、利益ともに約35百万円の影響)

*** 見通しは、現時点での製品ラインアップを引続き販売していた場合の見通しであり、現在交渉中の新製品や新たなOEM先などの案件は見込まず。**

取引先・製品区分別予想売上高

平成18年6月期(連結) 通期見通し

(単位:百万円・%)

	17年6月期 (当期実績)		18年6月期 (来期見通)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
ロシュグループ	1,456	45.3	1,200	33.8	17.6
キアゲングループ	1,069	33.2	1,200	33.8	12.2
(株)三菱化学ヤトロン	218	6.8	580	16.3	165.8
その他	471	14.7	570	16.1	20.9
合計	3,215	100.0	3,550	100.0	10.4

DNA自動抽出装置等	1,928	60.0	2,260	63.7	17.2
プラスチック消耗品その他	982	30.5	1,290	36.3	31.2
その他営業収入	304	9.5	-	-	-
合計	3,215	100.0	3,550	100.0	10.4

本日は有難うございました。

< お問い合わせ先 >

業見本部 IR・経営企画部グループ

電話：047-303-4800

FAX：047-303-4810

E-mail：ir@pss.co.jp

<http://www.pss.co.jp>